

東京学芸大学国語教育学会
2024年度 第2回例会のご案内

梅雨入りがいつなのか分からないような天候が続きますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。5月に第1回の例会と総会を行ったばかりですが、あっという間に第2回のご案内をすることになりました。今回の例会も、対面とオンラインのハイブリッド開催です。ぜひ、対面でご参加いただくと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 上田真也〔東京学芸大学附属大泉小学校〕

研究主題 探究的なことばの学びを創造する

日時 2024年7月6日(土) 14:00~16:10
会場 東京学芸大学附属大泉小学校【対面開催】
※オンライン参加の場合：事務局までご連絡ください。
(学会メーリングリストに登録の方はメーリングリストのお知らせを確認ください)

時程 14:00~ 開会
14:10~15:00 実践報告
「語れる問いで多様な読みに出会おう
ー『大造じいさんとガン』を審美しながら読むーについての実践報告」
杉並区立荻窪小学校 阿木 智華 先生
15:10~16:00 研究発表
「共同推敲における学習者の認知プロセスに関する研究」
立教女学院小学校 堀口 史哲 先生
16:00~16:10 事務連絡 閉会

発表要旨

1. 実践報告

「語れる問いで多様な読みに出会おうー『大造じいさんとガン』を審美しながら読むーについての実践報告」杉並区立荻窪小学校 阿木 智華 先生

国際バカロレアの初等教育プログラム (IB・PYP) の探究型カリキュラムから「審美」について小学校5年生の子どもたちと学びを深めた。本発表では、子どもたちが国語科「大造じいさんとガン」という教材から審美についての問いを立て、対話しながら読みを深めること、また読んだことを通して自分なりの「美」についての概念を形成していった実践について報告する。

2. 研究発表

「共同推敲における学習者の認知プロセスに関する研究」立教女学院小学校 堀口 史哲 先生

本発表では、小学3年生による「紹介文を書く」学習における児童同士の対話を分析することで、学習者が共同推敲を行う際に働かせる思考の実態を調査・分析した結果を報告する。また、本研究では学習を社会的なものとして捉えるために社会文化的アプローチ、特にヴィゴツキーの提唱する「発達の最近接領域」の理論に着目した考察を行い、対象の学級において学習者同士が協働する中で生じる対話が、学習者に内化されていくプロセスについて、実際の対話記録を基に検討する。

参加費 無 料 ※学会員の方は年会費（一般 5,000 円、学生 3,000 円）をいただきます。
※年会費の納入方法は、以下の口座への振り込みとなっております。
お早めにお振込み下さい。

★会費納入先口座★

三菱UFJ銀行（旧 三菱東京UFJ銀行）国分寺支店（店番 557）
普通 2039194 名義 東京学芸大学国語教育学会事務局 片山 守道

- ・本学会は、国語科教育に関心のお持ちの方ならばどなたでも入会できます。
- ・本学会に関するお問い合わせは、学会事務局（東京学芸大学附属大泉小学校・上田真也 ueshin@u-gakugei.ac.jp）までお願いいたします。
- ・第3回例会は、9月7日（土）の開催となります。会場は東京学芸大学附属大泉小学校です。
- ・同時にオンライン（zoom 会議室）でも参加が可能です。